

環境モニタリングの結果及び令和2年度上半期の状況一覧表

調査目的	調査名	調査項目	基準等	調査地点数	基準等超過項目			基準等超過項目の測定値(最小～最大)・基準等超過地点数					令和2年度上半期の状況
					全期間(～令和元年度)	令和元年度下半期	令和2年度上半期	全期間(～令和元年度)	令和元年度下半期	令和2年度上半期	基準値等	単位	
2.1生活環境 保全上の支障の 有無の把握	大気環境調査	ジクロロメタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン	大気環境基準	2地点	超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	物質毎	μg/m ³	環境基準が定められている4物質、指針値が定められている6物質全てで基準値等に適合していた。
		塩化ビニルモノマー、1,3-ブタジエン、アクリロニトリル、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、水銀及びその化合物	指針値		超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	物質毎	(ng/m ³ :水銀)	
		硫化水素、メタン、アンモニア	目標値		超過なし	超過なし	超過なし	-	-	-	物質毎	ppm (mg/m ³ :メタン)	
	硫化水素連続調査	硫化水素	目標値	2地点	硫化水素	超過なし	超過なし	0.005未満～1.105	0.005未満	0.005未満	0.02未満	ppm	目標値に適合していた。
放流水水質調査	総水銀(水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物)、鉛及びその化合物、有機燐化合物、六価クロム化合物、砒素及びその化合物、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、ほう素及びその化合物、ふっ素及びその化合物、アンモニア等(アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物)、水素イオン濃度(pH)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(SS)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)、フェノール含有量、銅含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量、クロム含有量、大腸菌群数、ダイオキシン類	放流水基準	1地点	大腸菌群数	超過なし	超過なし	0.1～16300	20～760	55～340	3000以下	個/cm ³	放流水の水質は、すべての項目で放流水の基準に適合していた。 過去に放流水基準を超過したことのある大腸菌群数についても、基準に適合していた。	
河川水水質調査	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、ふっ素、ほう素、1,4-ジオキサン、pH、BOD、SS、溶存酸素量、大腸菌群数	環境基準 上下流の比較	2地点	BOD、SS、溶存酸素量	BOD	BOD	上下流で同様の値を示す	上下流で同様の値を示す	上下流で同様の値を示す	対象毎	対象毎	上流側と下流側で同程度の値を示し、処分場からの放流水に周辺環境への影響は概ね無いものと考えられる。	

2.2浸透水等の 地下水の拡散 又はその おそれの把握	浸透水水質調査	総水銀、鉛、六価クロム、砒素、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、1,4-ジオキサン、塩化ビニルモノマー、アルキル水銀、カドミウム、全シアン、ホリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン、BOD	地下水等 検査項目基準	11地点	鉛	鉛	超過なし	0.002未満～0.060(9地点)	0.002未満～0.017(1地点)	0.002未満～0.003	0.01以下	mg/L	砒素は1地点(H16-13)で基準を超過したが、概ね横ばい傾向を示した。 1,4-ジオキサンは1地点(H16-13)で、BODは8地点(No.3b, No.5b, H16-3, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15, H26-3b)で基準を超過しており、変動は見られるものの、横ばい傾向である。			
					砒素	超過なし	砒素	0.001未満～0.069(3地点)	0.001未満～0.010	0.001未満～0.013(1地点)	0.01以下					
					トリクロロエチレン	超過なし	超過なし	0.002未満～0.019(1地点)	-	0.002未満	0.01以下					
					ベンゼン	超過なし	超過なし	0.001未満～0.018(4地点)	0.001未満～0.006	0.001未満～0.006	0.01以下					
					1,4-ジオキサン	1,4-ジオキサン	1,4-ジオキサン	0.005未満～0.31(5地点)	0.005未満～0.096(1地点)	0.005未満～0.17(1地点)	0.05以下					
					塩化ビニルモノマー	超過なし	超過なし	0.0002未満～0.012(1地点)	0.0002未満	0.0002未満	0.002以下					
	地下水水質調査	地下水環境基準	ほう素、ふっ素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	地下水環境基準	10地点	BOD	BOD	BOD	1.2～160(13地点)	5.2～40(9地点)	11～48(8地点)	20以下	mg/L	ほう素は5地点(H16-3, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15)で、ふっ素は6地点(No.5b, H16-3, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15)で基準を超過しており、変動はみられるものの、横ばいもしくは緩やかな低下傾向である。		
						ほう素	ほう素	ほう素	0.02～31(11地点)	0.02～9.6(5地点)	0.02未満～11(5地点)	1以下				
						ふっ素	ふっ素	ふっ素	0.08未満～5.6(11地点)	0.08～2.4(6地点)	0.12～2.7(6地点)	0.8以下				
						ダイオキシン類	ダイオキシン類	ダイオキシン類	0.037～110(7地点)	0.067～1.6(1地点)	0.048～2.1(1地点)	1以下			pg-TEQ/L	ダイオキシン類が1地点(H16-5)で基準を超過した。
						鉛	鉛	超過なし	0.002未満～0.083(6地点)	0.002未満～0.031(1地点)	0.002未満～0.009	0.01以下			mg/L	基準に適合していた。
						砒素	超過なし	超過なし	0.001未満～0.068(1地点)	0.001未満～0.008	0.001未満～0.008	0.01以下				
発生ガス等調査	発生ガス(発生ガス量、メタン、二酸化炭素、硫化水素、酸素、孔内温度(管頭下1m)、気象(気温、気圧))	-	-	17地点	発生ガス濃度:硫化水素濃度は概ね横ばい傾向を示している。メタン濃度は変動のある地点もあるが、これまでの変動の範囲内で推移している。 発生ガス量:全地点で横ばいから低下の傾向が見られるが、調査地点のうち11地点ではガスの発生が非常に少なかった。											
					13地点	硫酸イオン:主に横ばい傾向。他の地点と比べ、No.5bは高い値を示した。 塩化物イオン:主に低下又は横ばい傾向。										
						硫酸イオン、塩化物イオン:横ばい又は低下傾向。										
						顕著な変化なし。										
2.3処分場の状況 の把握	下流地下水状況調査	電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、水位、pH	-	8地点	硫酸イオン、塩化物イオン:横ばい又は低下傾向。											
	放流水状況調査	電気伝導率、酸化還元電位、塩化物イオン、硫酸イオン、透視度、水温、pH	-	1地点	顕著な変化なし。											
	地中温度調査	鉛直方向1m毎の温度、帯水域の温度	-	22地点	緩やかな低下傾向。埋立区域外との差も小さくなってきている。											
	地下水水位調査	地下水水位、降雨量	-	21地点	変動の幅はこれまでと同様であった。											
	多機能性覆土状況調査	硫化水素	-	26地点	下期に実施予定。											
	地表ガス調査	硫化水素	-	5地点	下期に実施予定。											
	バイオモニタリング調査	AOD試験による半数致死濃度	指針値 上下流の比較	-	2地点	全ての測定時期でAOD値が400%以上であり、上下流の差異は認められない。										

凡例

- 地下水等検査項目基準を超過したもの
- 環境基準を超過したもの
- 目標値を超過したもの
- 赤字表記 (○地点) 基準・目標値等を超過する値
基準等を超過した地点数